

職場のもめごと

二十数年前、閣議決定により、東京とその近郊の各省庁試験研究機関が筑波山麓に移ることとなった。

だが、移転予定地は荒れた畠とそのなかに山林の点在する茫漠たる土地で、交通の便も悪く、多くの人はいくつと何ができるかと感じたに違いなく、研究者を中心とする職員は激しく反対し、管理者は国の方針と職員との板ばさみにあって苦悩した。時恰も、制度化された職員の勤務評定の反対闘争も繰り広げられており、職場の日常の不満をこれにかこつける付和雷同者もいて、その苦悩を倍加させた。なかには、勤務評定は当然とし、移転も都会の悪環境から抜け出る良い機会であるとした者もいたが、声にはならなかった。

時は流れ、今は当時の反対論者も、一部は管理職となっている。筑波おろしが、過去を吹き流したのか。しかし、ときの管理者の受けた苦悩の傷は癒えない。組織の構成員にとって、命令に対する服従は当然だが、命令が構成員の納得を得られない場合、その具体化に当る管理者の精神的な悩みは大きい。

どこの職場でも、揉め事はつきないが、その職場が外見上平穏に見えるのは、構成員が互いに努力しあい、揉め事の克服に力を注いでいるからだと思うが、そう簡単なことではない。しかし、職場の構成員が、仕事以外でも、日常もっと意志の疎通を図り、信頼感と親密感とを醸成することに努めたら、揉め事を少しは和らげることができたのではなかろうか。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会監事 長田耕栄〕

目次 (第17巻第5号)

ローカルな水田雑草……………2

＜九州農業試験場 高林 実＞

1. はじめに……………2
2. 主要多年生雑草……………2
3. 報告書に記名のあった多年生雑草……………4
4. 記名のあった一年生雑草……………5
5. むすび……………5

畑作除草剤使用の現状と将来

—— 関東・東山・東海——……………6

＜農業研究センター 草薙得一＞

1. はじめに……………6
2. 主要畑作物の作付概況……………6
3. 除草体系と除草剤の使用状況……………8
4. 除草剤利用技術の将来方向……………10
5. おわりに……………12

ピラゾレートの白化作用について……………12

＜三共㈱農業研究所 川久保克彦＞

昭和57年度秋冬作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験成績概要……………19

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞

昭和57年度秋冬作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験薬剤一覧ならびに判定表

1. 除草剤……………19
2. 生育調節剤……………23
3. 前回未検討・未提出分除草剤……………25
4. 前回未検討・未提出分生育調節剤……………26

民間研究所めぐり……………29